

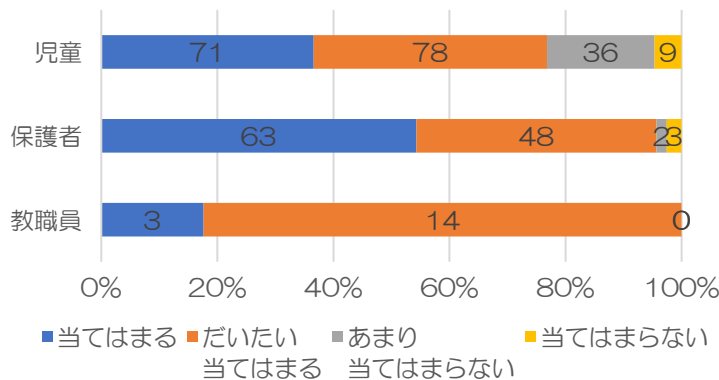
学校評価アンケート（前期）の結果について

このたび実施いたしました「学校評価アンケート（前期）」の結果がまとまりましたのでご報告いたします。本紙面では、学校生活や学習などの主要な15テーマに関する結果と、本校の考察・後期に向けた方針をお知らせいたします。

なお、すべての設問を含む全体結果につきましては、本校ホームページに掲載しておりますので、併せてご覧ください。いただいたご意見を真摯に受け止め、後期も全教職員で子どもたちの健やかな成長と安心できる学校づくりに努めてまいります。

1. 楽しい学校生活

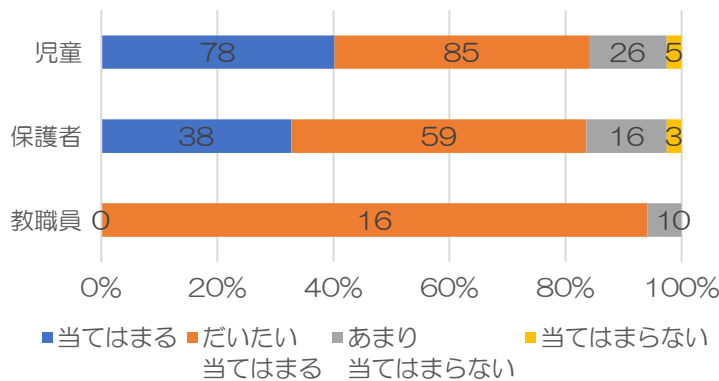
児童：毎日学校へ行くのが楽しい。
保護者：お子さんは、楽しい学校生活を送っている。
教職員：児童は、楽しい学校生活を送っている。



保護者の肯定率は95.7%と高い評価をいただいております。一方で、児童自身の肯定率は76.8%（否定率23.2%）にとどまっており、約2割強の児童が日々の生活に何らかの悩みや不安を抱えている点に深く向き合う必要があります。大人の実感と子どもたちの実感の間にある温度差を真摯に受け止め、本校としては後期に向けて、一人ひとりの表情や行動の変化にこれまで以上に気を配り、小さな困り感や不安を早期に汲み取って支援につなげるフォロー体制を強化してまいります。

2. 夢・目標・粘り強い取り組み

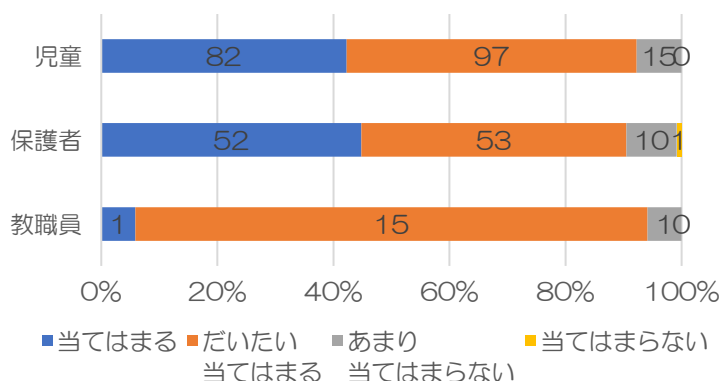
児童：夢や目標をもち、前向きに粘り強く取り組んでいる。
保護者：お子さんは、夢や目標をもち、前向きに生活している。
教職員：児童は、夢や目標をもち、前向きに生活している。



児童の肯定率が84.0%、保護者が83.6%、教職員が94.1%と、いずれの立場からも前向きな評価となりました。子どもたちが夢や目標を持って日々の学習や行事に取り組んでいる成果と受け止めています。この良さをさらに伸ばすため、本校としては後期に向けて、児童が達成感を実感できる小刻みな目標設定や、結果だけでなく努力の過程を認めて褒める指導を徹底し、壁にぶつかっても粘り強く挑戦し続けられる自己効力感（やればできるという自信）を育ててまいります。

3. 思いやり・助け合い・対人関係

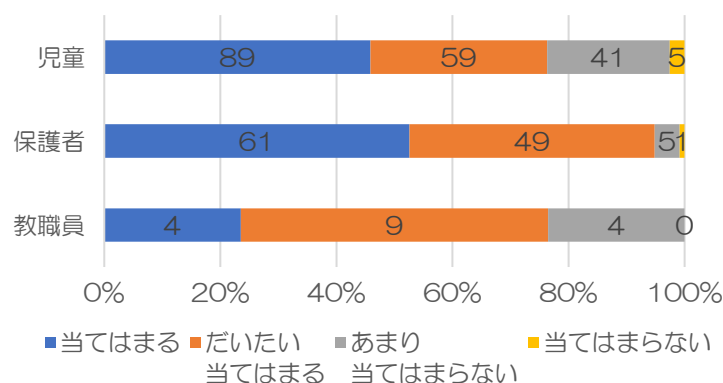
児童：相手を大切にし、思いやりのある行動ができている。
保護者：お子さんは、思いやりをもって助け合うことのできる子に成長している。
教職員：児童は、思いやりをもって助け合うことのできる子に成長している。



児童92.3%、保護者90.5%、教職員94.1%と、すべての対象で9割を超える極めて高い肯定率となっており、本校の大きな強みであり財産です。子ども同士がお互いを尊重し、助け合って過ごす温かい集団関係が構築されています。本校としては後期においてもこの良好な人間関係を基盤とし、学年を超えた異学年交流や集団活動の機会をさらに充実させ、思いやりの心を豊かな社会性や共生意識へと発展させてまいります。

4. 健康・気力体力・運動

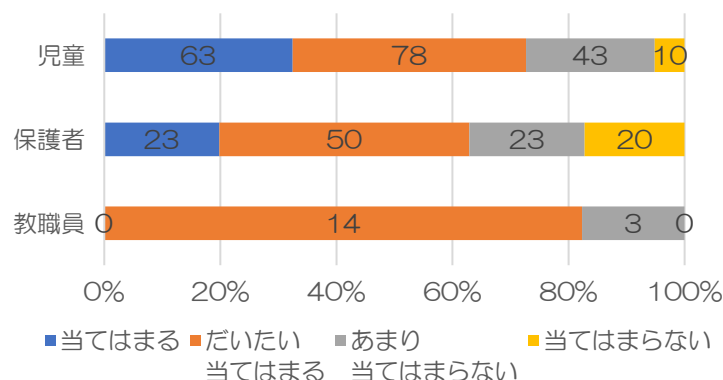
児童：外遊びや運動をたくさんしている。
保護者：お子さんは、健康的であり、気力・体力が備わっている。
教職員：児童は、健康的であり、気力・体力が備わっている。



保護者の肯定率が94.8%と非常に高い反面、教職員（76.5%）および児童（76.3%）の肯定率は7割台にとどまっています。保護者の皆様の安心感に対し、現場の教職員や子ども自身は「運動量の不足」や「気力・体力の維持」に課題を感じている現状があります。本校としては後期に向け、体育授業の工夫や休み時間の外遊び推進、体育的行事の活性化を図り、子どもたちが楽しみながら自発的に体を動かせる環境整備と健康的な生活習慣の啓発に取り組んでまいります。

5. 主体的な学習・家庭学習

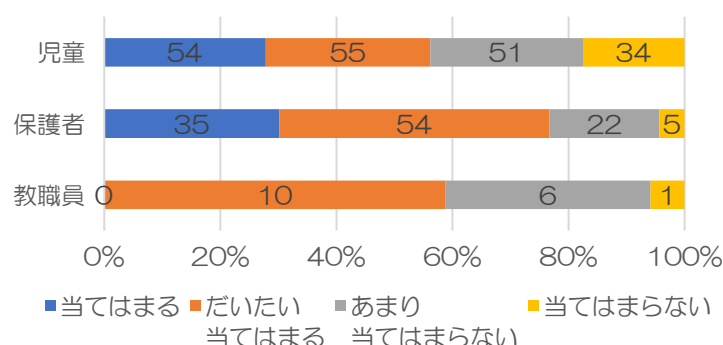
児童：学校での学習は、自ら進んで取り組んでいる。
保護者：お子さんは、家庭学習（宿題や読書も含む）する習慣が身に付いている。
教職員：児童は、主体的に学習に取り組んでいる。



教職員の肯定率は82.4%、児童の学校での主体的な学習姿勢は72.7%ですが、保護者の家庭学習に対する肯定率は62.9%（否定率37.1%）にとどまっています。学校での学習意欲が家庭での習慣化（宿題・読書・自主学习）へ十分に接続しきれていない点を重要な課題として認識しております。本校としては後期に向けて、ご家庭としっかり連携を図りながら、取り組む内容や手順が明確な家庭学習の提示方法を工夫し、児童が自信を持って自主的に机に向かえるよう手厚く支援してまいります。

6. 学習の基盤（読む・書く・聞く・話す／読書）

児童：学校で進んで読書をしている。
保護者：お子さんは、学習の基礎基本（読む・書く・聞く・話す）が身に付いている。
教職員：児童は、学習の基礎基本（読む・書く・聞く・話す）が身に付いている。



教職員の肯定率が58.8%、児童の読書意欲が56.2%（否定率43.8%）と、全アンケート項目の中で最も低い結果となりました。保護者の肯定率（76.7%）と比較しても、現場として基礎基本の定着や読書離れに強い課題意識を持っています。本校としては後期、最優先課題として全校を挙げて取り組みを推進いたします。朝の読書タイムや図書室環境の整備に加え、各教科で「読む・書く・聞く・話す」機会を意識的に組み込み、すべての学びの土台となる言語能力と読書習慣の育成に努めてまいります。

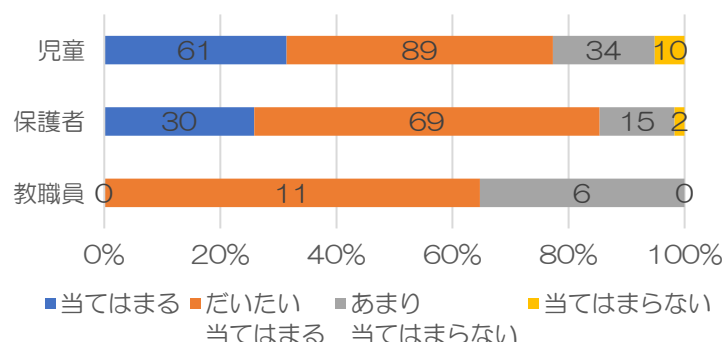


7. 学習の活用・実践

児童：学習したことを、生活にいかそうとしている。

保護者：お子さんは、学校での学習を家庭や社会生活に生かしている。

教職員：児童は、学校での学習を学校生活に生かしている。



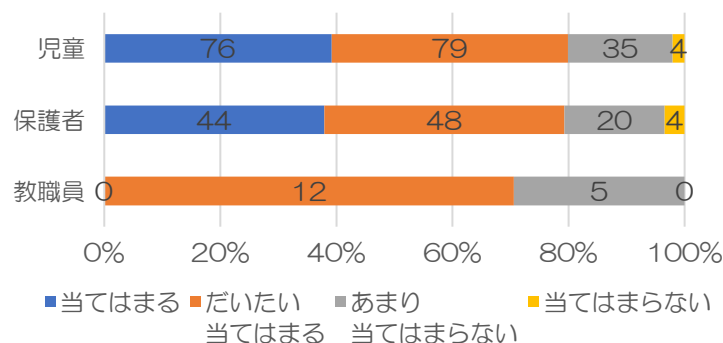
保護者の肯定率が85.3%、児童が77.3%であるのに対し、教職員の肯定率は64.7%にとどまり、指導者側に「学んだことが生活へ生かされきれていない」という実感があります。児童やご家庭の前向きな意識をより確かな成果へとつなげるため、本校としては後期、探究学習や生活科・総合的な学習の時間を中心に、授業で得た知識・技能を日常の生活や地域課題の解決に活用する場を工夫し、学びの実感を深める指導を展開してまいります。

8. あいさつ(身近な人・校内)

児童：お家の人、友だち、先生にあいさつをしている。

保護者：お子さんは、身近な人(家族、友達、先生)にあいさつをする習慣が身に付いている。

教職員：児童は、あいさつをする習慣が身に付いている。

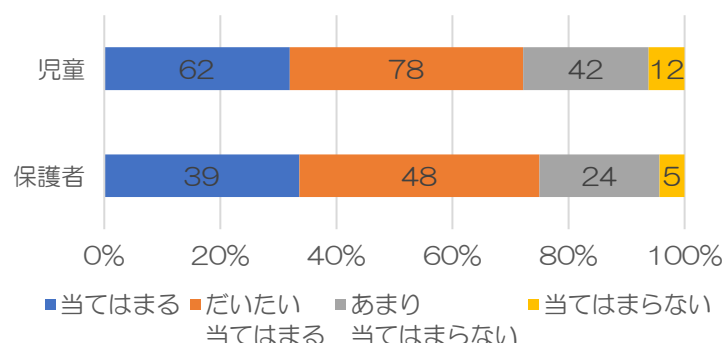


児童(79.9%)や保護者(79.3%)の肯定率は約8割ですが、教職員の肯定率は70.6%となっています。子どもたちが意識して行っているあいさつを認めつつも、教職員としては「自分から進んで」「気持ちの良い応答」という質の高まりを求めている状況です。本校としては後期に向けて、単にあいさつを呼びかけるだけでなく、「相手の目を見て」「自分から先に」といった具体的な行動目標を提示し、児童会活動と連動しながら、自発的に心地よいあいさつができる校内風土を育ててまいります。

9. あいさつ(地域の方・交通ボランティア)

児童：地域の方(ご近所、交通ボランティア)にあいさつをしている。

保護者：お子さんは、地域の方(ご近所、交通ボランティア)にあいさつをする習慣が身に付いている。



児童の肯定率は72.2%、保護者は75.0%であり(教職員は該当設問なし)、身近な人・校内でのあいさつに比べてやや低くなる傾向が見られます。地域の方々や見守りボランティアの皆様に対しても、自然にあいさつができる社会性を育てることが課題です。本校としては後期に向け、地域の方々への感謝を伝える機会や交流の場を設け、見守られている安心感を実感させるとともに、感謝の気持ちを伝えるあいさつ指導を継続してまいります。



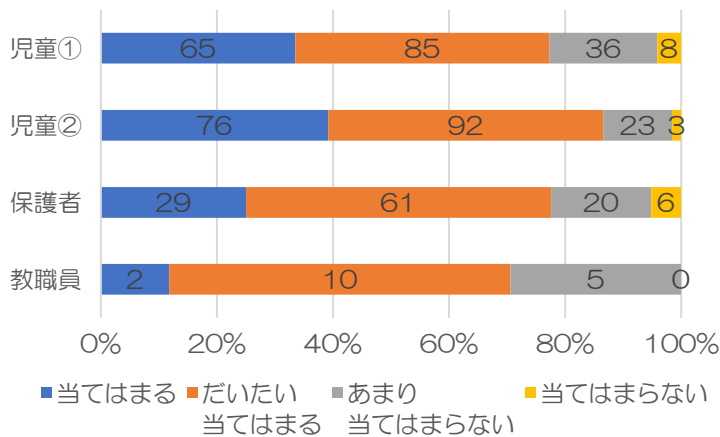
10. 約束・時間・生活規律

児童①：時間を守って生活している。

児童②：きまりを守って生活している。

保護者：お子さんは、約束を守ったり、時間を意識したりして生活している。

教職員：児童は、約束を守ったり、時間を意識したりして生活している。



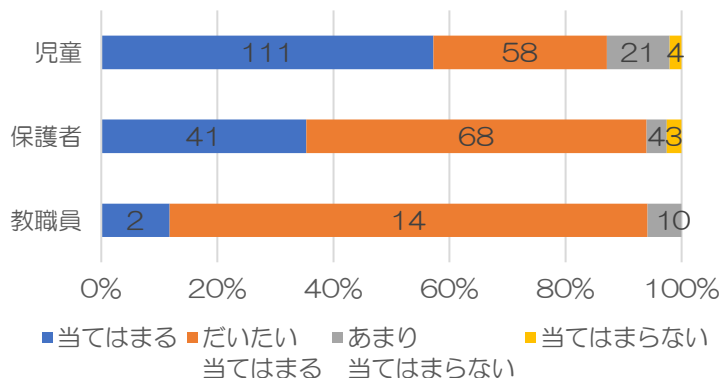
児童は「時間を守る」ことへ 77.3%、「きまりを守る」ことへ 86.6%の肯定率を示し、保護者も 77.6%と肯定的です。一方、教職員の肯定率は 70.6%となっており、学校生活での自律した行動や時間意識の面でなお改善の余地があると捉えています。本校としては後期、児童の自主性を尊重しながら、チャイム着席やルール遵守の好事例を全体で共有・賞賛し、子どもたちが自ら見通しを持って行動できる「自己管理能力」の育成に取り組んでまいります。

11. 分かりやすい授業・指導工夫

児童：先生は、よく分かるように、ていねいに教えてくれる。

保護者：授業は、楽しく・分かりやすく展開されている。

教職員：楽しく・わかりやすい授業の工夫とその実践を行っている。

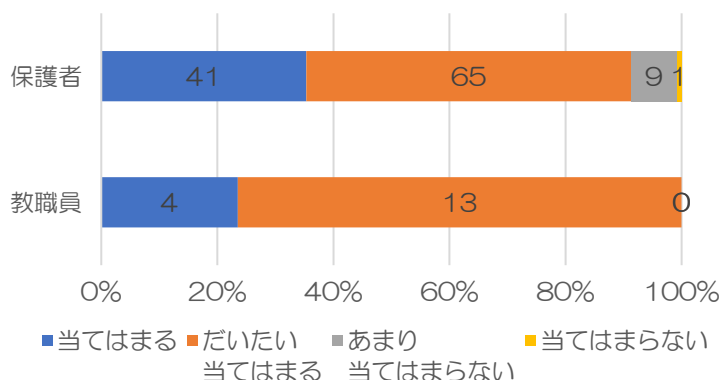


児童 87.1%、保護者 94.0%、教職員 94.1%と、すべての対象から大変高い評価となりました。教職員の日々の授業改善や丁寧な指導が、子どもたちの確かな理解と安心感につながった成果であると受け止めております。本校としてはこの成果に甘んじることなく、後期におきましてもICTを活用した視覚的な支援や小グループでの対話的な学びを取り入れ、一人ひとりの習熟度やつまずきに応じた「誰一人取り残さない分かりやすい授業」の実践を追求してまいります。

12. 学力向上への取り組み

保護者：学校は、児童の学力向上に向けた指導に取り組んでいる。

教職員：児童の学力向上に向けた指導を行っている。

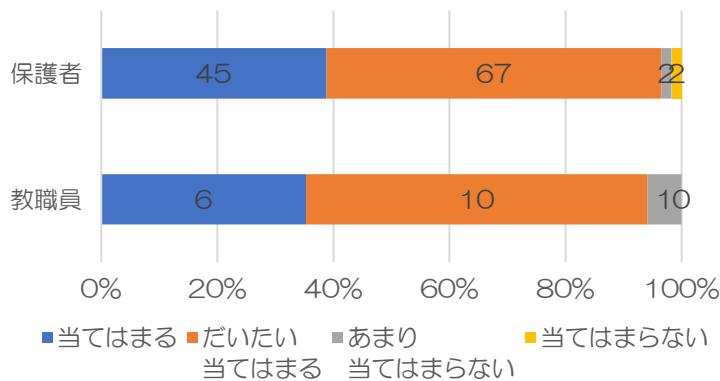


教職員の肯定率は 100%であり、保護者の肯定率も 91.4%と高い信頼をいただいています（児童は該当質問なし）。学力向上に向けた指導体制や学校の方針が保護者の皆様にも浸透していると受け止めています。本校としては後期に向けて、この良好な評価を維持しながら、家庭学習や基礎学力の課題解決と連動させ、単なる知識の定着にとどまらず「自ら考え表現する力」を高める指導の充実を図ってまいります。

13. 特別支援への対応

保護者：学校は、特別の支援が必要な児童に対し場面に応じた支援を行っている。

教職員：特別に支援を必要とする児童に対して、適切な対応をしている。



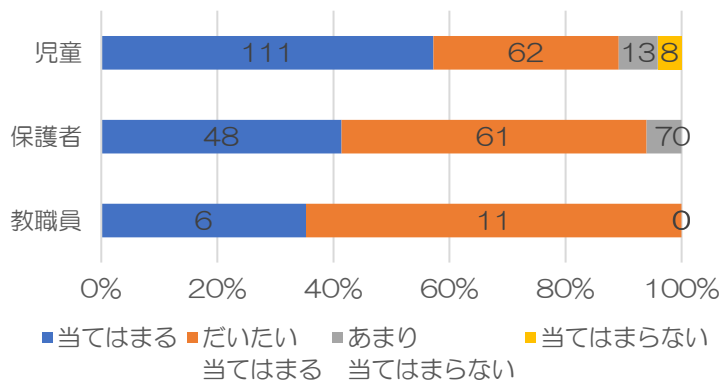
保護者の肯定率は96.6%、教職員も94.1%と、極めて高い評価となりました（児童は該当質問なし）。個に応じた丁寧な配慮や場面に応じた手厚い支援体制が評価されたと考えております。本校としては後期においても、校内の支援体制や関係機関との連携を一層強化するとともに、合理的配慮の申し出のあった児童だけでなく、すべての児童が安心して学べる環境づくりを推進してまいります。

14. 寄り添った対応・悩み相談

児童：先生は、よく話を聞いてくれたり相談ののってくれたりしてくれる。

保護者：学校は、児童や保護者の相談に対して、寄り添いながら対応している。

教職員：児童や保護者の気持ちに寄り添い親身になっている。

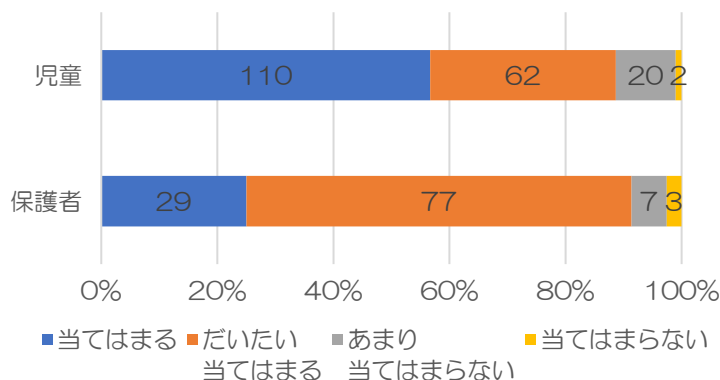


児童 89.2%、保護者 94.0%、教職員 100%と高い肯定率を示しており、学校と家庭・児童との強い信頼関係を示しています。児童が先生に相談しやすく、親身な対応が評価されていることを大変心強く受け止めています。本校としては後期に向けてもこの温かい対応を継続し、定期的なアンケートや日常の観察を通じて表に出にくい SOS や変化を早期に察知し、迅速かつ組織的に対応する体制を徹底してまいります。

15. いじめ解決

児童：先生は、いじめやけんかがあったとき、解決するようにしてくれる。

保護者：学校は、いじめのない学校づくりに向け取り組んでいる。



保護者の肯定率は91.4%、児童の肯定率は88.7%であり（教職員は該当質問なし）、学校がいじめの未然防止やトラブルの解決に迅速かつ組織的に取り組んでいる姿勢が支持されています。しかし、児童の約1割強（11.3%）がなお不安を抱えている現実を真摯に受け止めねばなりません。本校としては後期、「いじめは絶対に許さない」という強い決意のもと、未然防止のための道徳教育や人間関係づくりを強化し、すべての児童が心の底から安心・安全を実感できる学級・学校経営に努めてまいります。

